

2015年度 早稲田大学 文化構想学部 英語解答例

I (A) 1-c 2-c 3-b 4-a 5-a 6-d 7-b
(B) 8-a 9-d 10-b 11-c 12-d 13-a 14-c

II (A) 15-d 16-a
(B) 17-a 18-a 19-d
(C) 20-b 21-b 22-a 23-c 24-b

III 25-b 26-a 27-h 28-d 29-c 30-f 31-g

IV 32-j 33-f 34-c 35-e 36-m 37-a 38-l

V As everyone knows, those who stay abroad for a certain period feels out of place and lonely because of culture shock, but after being somewhat influenced by the foreign culture and coming back home, they may experience a second shock deriving from their family's or friends' indifference toward their culture consciousness.

※コメント

空所補充と内容を問う読解問題が小問で5題と会話問題、最後に英文を読んでこれを英文で要約する問題が出題され、ほぼ例年通りの出題形式と難易度。本文中の所々に難度の高い語彙や、up to date な表現が見られるが、文脈把握の能力があれば対処できる。例年に比べ、まぎらわしい選択肢は減少している。

2015年度 早稲田大学 文化構想学部 国語解答例

(一)

A 坂口安吾「文学のふるさと」
B 柄谷行人『『日本文化私観』論』

[解答]

問一 ニ 問二 イ 問三 突き放す 問四 ホ 問五 したが～ない。
問六 ニ 問七 ロ

(二)

[出典]

別役実「台詞と科白」(2013/8/13付 日本経済新聞・朝刊掲載)

[解答]

問八 ロ 問九 甲 ホ 乙 ハ 問十 ロ 問十一 体験感 問十二 イ

問十三 1 戯曲 2 成熟

(三)

[出典]

甲 唐木順三『中世の文学』

乙 鴨長明『発心集』

丙 源信『往生要集』

[解答]

問十四 ハ 問十五 ニ 問十六 ヘ 問十七 ロ 問十八 ハ

問十九 ホ 問二十 イ 問二十一 ニ

問二十二 III よろしく IV いづべし 問二十三 ロ・ホ

[講評]

(一) は、昨年同様内容的に関連のある二つ文章を対照させる形式。例年以上に関連性の深い文章が取り上げられ、設問も問三、問四、問五、問七など、両者の対応を深く意識させるものとなっている。問一は選択肢にまぎらわしいものがあり、問二は、文中から根拠を見つけにくいいため、やや難しい。問七は難問。設問中の「評価」という語を積極的な意味でとらえると、適切な選択肢が見つからないため、ここでは消極的な意味に解して、ロを答えとする。なお、問五は、設問中に明確な指定がないため、句点を字数に含めるかどうかの判断が難しいが、ここでは、「字」＝記号を含む。「文字」＝記号を含まない。という通例に従うこととする。

(二) は、もともとが新聞に掲載されたエッセイであることもあり、比較的平易で短めの文章が出題されている。問八の脱文挿入問題と、問九・甲の空欄補充問題がやや難しい。脱文挿入問題は、文化構想学部に限らず、早稲田大学では定番の問題なので、常日頃からしっかり対策を練っておきたい。

(三) は、ここ数年と共通の現古漢融合問題。甲の文章が理解できれば、乙、丙の問題はそれぞれ、古文、漢文の基礎的な知識で解くことができる。ただし、問二十一の文学史の問題は、通常国語で要求される受験生の知識を越えているかもしれない。また、問十七は選択肢が絞りにくく、やや難しい。